



学 藝

令和6年(2024年)3月/第150号

— 特集：新年祝賀会 —



◇ 巻頭言 桜の木に寄せて……………	理事長 森 富子… 2
架け橋期の教育の充実に向けて……………	副理事長 渡辺 裕之… 3
◇ 新年祝賀会挨拶……………	理事長 森 富子… 3
◇ 新年祝賀会の様子……………	4
◇ 支部紹介 台東支部・文京支部・練馬支部・足立支部・武蔵野支部・府中支部・狛江支部・羽村支部……………	6
◇ サンティアゴだより……………	11
◇ 研究発表会報告 江東区立水上小学校 墨田区立第一寺島小学校……………	12
昭島区立光華小学校 小金井市立小金井第一小学校……………	14
◇ 副校長の活躍 港区立港南小学校 あきる野市立一の谷小学校……………	16
◇ 若手教員の活躍 杉並区立久我山小学校 福生市立福生第四小学校……………	17
◇ 本部だより……………	総務部・会計部・研修部・調査部・広報部・お知らせ… 18
◇ 新年祝賀会～各支部等記念写真～……………	20



「桜の木に寄せて」

理事長 森 富子

令和六年は、大きな地震と事故の幕開けとなりました。能登半島地震で被災された皆様に、心からお悔みとお見舞いを申し上げます。私は、大学の理科の授業で、火山や地殻、地震などの話をしてきました。日本列島はどこでも地震が起こります。日頃から自分のいる場所や地域で自然災害が起きた場合は、どこに避難するのかを確認しておく必要があります。小中学校は避難所となることが多く、能登半島地震の地域の学校には多くの方々が避難されました。阪神淡路や東北などの大きな地震を経験した学校関係者の皆様からたくさんのお話を伺っているのですが、いまだに十分ではないのが現状です。幼稚園や学校の授業再開のニュースが伝わるたびに心から思いました。一日も早い復興をお祈りしています。

一月二十一日に開催した新年祝賀会には、学長の國分様をはじめ多くのお客様をお迎えすることができました。昨年より少しだけ規模を拡大して百名を超える参加がありました。新年会の様子は後ほどのページで紹介しています。同窓会の本来の姿が戻ってきたと実感した和やかな会となりました。ご来場いただきました皆様、心から感謝いたします。来年度はさらに拡大してまいりたいと考えております。

この一、二月は新年会を実施する支部も多くなり、各支部の皆様と関わる機会も増えました。今年は、可能な限り各支部へ訪問して、多くの方々との交流をしていきたいと思っております。

今年の桜は入学式に咲くようですが、近年では卒業式に満開になることが多くなりました。桜の開花でも季節の大きな変化に戸惑うばかりです。桜と言えば、東京学芸大学の桜並木や校内を彩る桜のことを思い出される方も多いと思います。正門前の桜並木、附属小中学校までの東門へつながる桜並木、体育館前や陸上競技場の桜など、大学各所の桜の木の下での思い出には事欠かないのではないのでしょうか。現在の東京学芸大学は、約三年前の大きな台風の影響と桜の木の寿命で、次々と倒れて危険になったことから、多くの木が伐採されました。きつと大学に来て一番先に目につくのが、桜の木のない光景だと思います。空が高く、空間が大きく広がっていると感じることでしよう。そこで、今年度の東京学芸大学創基一五〇周年の記念事業の中に「桜基金計画」が立ちあがり、桜の途中までは、目標としていた金額が集まらず先送りされようとしていたのですが、わが東京学芸大学同窓会の寄附金が入ったことで、桜の木の植樹記念事業がスタートしました。大変嬉しくありがたいことです。三月末には、植樹式があり、同窓会の名前を刻んだプレート置くことが計画されています。どうぞ皆様、東京学芸大学においでの際は、このプレートを探してみてください。本部棟の前に設置予定です。残りの寄附金は東京学芸大学で学んでいる学生のために使う費用、主に海外への短期留学や海外派遣事業、研究や部活動の補助など、将来先生になった時に役に立つ事業に使っていただきます。

今年度も同窓会の事業として何ができるか検討を重ねておりますが、東京学芸大学の卒業生だけではなく、現役のどの先生にとっても役に立つ事業を展開していきたいと思えます。研修部が中心に行っている管理職選考の講習会には同窓でない先生も参加できます。受験者が増えている主任教諭選考のための研修会も同様に実施していきます。支部長会にはオンラインで参加される方が増えてきました。今年度も「子獅子」を大学に寄贈しました。この「子獅子」は学生だけでなく、若い先生方にとっても教科書になります。管理職試験で利用する「獅子」も新たに作成しています。どうぞたくさん活用してください。先生方の助けになることを願います。広報誌「學藝」やホームページを充実させている広報活動や調査部の情報収集と会員名簿作成の工夫、会計部の地道な努力による会員数の把握などは、これらの事業を拡大するためにはとても大切です。会員の皆様、どうぞ多くの情報を提供していただき、獅子などを上手に活用していただくことで、会員の皆様と一緒に同窓会の充実を図っていききたいと思っております。同窓会理事役員一同、知恵を合わせてこれからも頑張ってまいります。

架け橋期の教育の充実に向けて

副理事長 渡 辺 裕 之

昨年二月、中教審の「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」は「学びや生活の基礎をつくる幼児教育と小学校教育の接続について」(幼児小の協働による架け橋期の教育の充実(審議のまとめ))を公表しました。

架け橋期の教育の充実には、「幼児」で歩調を合わせることもさることながら、「小学校」も含めた継続性・双方向性を重視すべきであることは言うまでもありません。また、保護者や地域住民を巻き込んだ仕組みづくりに発展させることも大切です。

しかしながら、中学校を含む学校現場では、幼児教育が「遊び」を通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う重要な時期であるとの認識はもとより、幼児期における「遊び」を通して主体性や協働性を育んでいることへの理解が不十分であると指摘されています。別の言い方をすると、発達段階の違いからくる「遊び」の中での「学び」が、「各教科等の授業を通じた学習」との学び方の連続性に配慮せず、幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」、資質・能力をおさざりにし、各教科等の特質に応じた「学び」へとつなぎきれていない状況であると言えます。

このような状況の下、小学校では、自校のスタートアップカリキュラムや第一学年の指導計画を改めて点検する必要があります。とりわけ、入学してくる園児にとって、小学校での最初の「学び」が、好奇心や探究心をもち、感じたことや考えたことを「自分の言

葉で伝えたい」という思いを実現できるものになっていくか見直すべきと考えます。というのも、児童側(または保護者)が、「教師が期待する児童像」のイメージを付度してしまい、結果的に自分の思いや考えを自由に表現しようとする機会を自ら制限してしまう「学び」に陥っている可能性があるからです。さらに言えば、身に付けるべき資質・能力が、主体性と反して「従順さ」や「忍耐強さ」、正解の追求のみに傾倒していないか、「探究型の学び」が昨今話題となっていない中、指導方針・学び方を学校全体で議論する必要がありますがあると思われま

一方、架け橋期を組織的な対応という視点で焦点化すると不十分さが垣間見えます。とりわけ、入学委員会等の分掌では、年度後半の入学式に係る提案や入学前の園児の聞き取りなどの事務作業に留まっているのが現状ではないでしょうか。そこで、入学に関わる分掌には、「架け橋期の教育」の重要性に鑑み、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をもとに、幼児教育施設でどのような「学び」が展開されているかの検証など、年間を通して具体的な業務を担当させることを提案します。架け橋期の教育の充実に向け、校長の経営手腕が問われています。自ら「橋渡しの存在」となって、幼児小の間の凹みに橋を架けて、行き来がしやすいように立ち回ることが求められていると言えそうです。

新年祝賀会挨拶

理事長 森 富 子

東京学芸大学同窓会 理事長の森富子でございます

まず初めに能登半島地震の犠牲になられた方々、今なお避難を余儀なくされている皆様に心からお見舞いを申し上げます。

改めまして新年のご挨拶を申し上げます。皆様、新年おめでとうございます。

本日はお忙しい中、また一段と寒い日になってしまいました。一般社団法人 東京学芸大学同窓会 新年祝賀会にご来賓として、東京学芸大学 学長 國分様を始め、多くのお客様、顧問の皆様、そして各支部の皆様をお迎えして開催できますことをとてもありがたく、心から御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、はじめに申し上げますように、能登半島を中心とした北陸地方では、いまだに避難生活をされている方も大勢いらつしやいます。また多くの避難所となっているのが小中学校です。報道では、学校の授業も始まったとありますが、避難所と同時に学校生活もスタートするにあたり、コロナのときにも言われました「学びを止めない」の合言葉で一日も早い学校の生活の復興をお祈りしたいです。

さて、東京学芸大学同窓会は、おかげさまでコロナ前に戻りつつあります。研修部、調査部、会計部、総務部、

広報部の各部では部長を中心に活動を行い、部によっては東京学芸大学同窓会だけの活動ではない事業にも取り組み、コロナ前にも増しての活動を行いますので、皆様のご協力をお願いいたします。

一つご報告をいたします。かねてからの案件でありました同窓会の財産一五〇周年の時期に合わせて寄附をすることといたしました。東京学芸大学に在学している学生や研究をされている大学の関係者の皆様に少しでもお役に立てるようしていただければ幸いです。

東京学芸大学が更なる発展をされることに心から応援をしたいと思っております。後ほど学長の國分様に目録をお渡ししたいと思います。

本日は、まだ参加に制限をかけた状況ではありますが、各支部からも多くの参加者が集いました。短い時間ではありますが、どうぞ旧交を温めていただき二〇二四年が素晴らしい年になりますよう、そして同窓会の活動を支えていただきますようお願いいたします。

本日もご参加くださいました皆様のお名前を申し上げます。本日は、どうぞよろしくお祈りいたします。

令和6年

新年祝賀会

日時 令和6年1月21日（日）12時～

場所 東京ガーデンパレス



一般社団法人 東京学芸大学同窓会

式次第

1. 開会のことば
2. 理事長あいさつ
3. 来賓挨拶
4. 来賓紹介
5. 乾杯
6. 会食・懇談
～各支部から～
7. 学生歌
「若草もゆる」
8. 閉会のことば

新年祝賀会の様子

当日は、107名の参加がありました。そのうち、58名が各支部からの参加者でした。今回は各支部5名までとした立食による祝賀会でした。各支部からの報告、支部ごとの記念撮影、旧交を温める姿があちらこちらで見られ、会場は笑顔でいっぱいになりました。来年は、参加人数の制限をなくし、従来の規模にもどして実施する予定です。



黙祷



会場入口



森 富子 理事長 あいさつ



開式のことば



副学長 あいさつ (事業説明)



國分 充 学長 あいさつ

森理事長から大学へ寄付金の目録が渡されました。この寄付金は、大学構内の桜の木の植樹などに使われます。桜の木には同窓会のプレートも付けられるそうです。



来賓紹介



寄付金授与



会食と懇談



皆様からの募金



来賓の皆様

能登半島地震に際しては、会に先立ち黙祷を捧げるとともに、募金をしました。77,008 円が集まりました。このお金は日本赤十字社を通して、支援に生かしていただきます。ありがとうございました。

台東区の紹介

台東支部長 川崎 暁子

(台東区立金竜幼稚園)

【台東区の学校園】

台東区には区立幼稚園・こども園十一園、小学校十九校、中学校七校があります。年二回の「連携の日」には、中学校ごとの「ファミリー」で集まり、私立幼稚園や保育園も含めた幼児教育施設から中学校までの保育士・教員がお互いに保育や授業を参観したり、話し合ったりしています。

【学びのキャンパスランニング事業】

台東区では施策の一つとして、平成二十五年度より「学びのキャンパスランニング事業」を行っています。この事業は教育委員会が台東区内の文化・芸術・歴史施設や企業、団体などと連携した教育プログラムを企画し、学校園の希望により実施するものです。

本園でも、大学と連携したアニメーション表現、凧作り、能体験、お雛子体験、音楽ワークショップなど、様々な体験を楽しみました。子供たちは目を輝かせて取り組み、その後の遊びに生かす姿が見られます。本物に触れる貴重な機会であり、文化財や人材に恵まれている台東区ならではのよさを感じています。

【幼稚園・こども園の状況】

園長の立場から、台東区立幼稚園・



お雛子の会
和楽器を見せてもらっている子供たち

こども園の状況についてお伝えしたいと思います。令和四年度から長期休業中も含めた預かり保育の試行や、業者による弁当給食の配食（選択制）が始まりました。これらの取り組みの成果として、区全体としては少しずつ園児数が増えています。また、区立幼稚園・こども園の公式インスタグラムも始めました。園の魅力を発信し、幼児教育への理解を深めていきたいと思っています。また、区立幼稚園十園は小学校の敷地内にあり、幼小の連携を進めやすい環境にあることも公立園の強みの一つです。これからも横の連携、縦の連携を深めながら質の高い教育を推進していきたいと思えます。

文京区の紹介

文京支部長 熊倉 勝

(文京区立明化小学校)

文京区は、東京二十三区の中部、ちょうど真ん中に位置します。一九四七年に旧小石川区と旧本郷区が合併して誕生しました。根津神社や護国寺など、由緒ある神社・仏閣や、歴史ある建造物も数多く、都心にありながら、緑が多いのも特徴で、小石川植物園、六義園等の旧大名庭園をはじめとする貴重な緑地を今に残しています。

「文の京（ふみのみやこ）」という字の通り、日本有数の文教地区としても知られています。江戸時代に設けられた湯島の孔子廊（湯島聖堂）は、昌平坂学問所として幕府の官学を学ぶ場となり、日本の学校教育発祥の地とされています。明治以降は、本郷の帝国大学（現・東京大学）をはじめ、多くの教育機関が設立されました。また、東京大学周辺には多くの文化人・文人が集い暮らしていたことから、近代文化の発信地という一面もありました。現在も、先鋭的で個性的な美術館や博物館、ギャラリーも数多くあります。

また、坂の数が多いのも文京区の特徴です。その数は千箇所以上ともいわれ、名前のついている坂だけで百十五個もあります。

文京区には、区立幼稚園十園、区立

小学校二十校、区立中学校十校があります。児童数が年々増加し、各小学校では軒並み普通教室の増設工事が行われています。

区教育委員会は、「教育ビジョン」が輝き共に生きる文京の教育」の実現を目指し、教育施策を推進しています。令和六年度に向けては、①確かな学力の定着（ICT支援員による支援の充実）②豊かな人間性の育成（いのちと人権を考える月間）の設定 ③健康・体力の増進（区立中学校への部活動指導員及び部活動指導補助員の配置）等を重点に、学校教育における知・徳・体のバランスのとれた力の育成を目指します。



小石川植物園での「たてわり俳句吟行」
(明化小学校)

練馬区の紹介

人口約七十四万人は二十三区第二位、農地面積は二十三区第一位。都市の中で農業が盛んなのは、良い作物を育てるために、昔から工夫して土壌を豊かにしてきたからでしょう。

練馬区の農産物トップは、「練馬大根」から大根を思いうかべる人も多いのでは。実は生産量トップはキャベツです。区内には、練馬大根碑、甘藍の碑があります。甘藍とはキャベツのことです。食卓に欠かせないあらゆる農産物を生産している練馬区の農業の特徴は、「多品目の少量生産」です。

練馬区教育委員会は、「農業者と連携した教育活動の実施」を教育課程に位置付け、地域の特色を生かした体験活動の充実を図っています。

練馬支部の活動を紹介します。

・練馬支部定期総会（四月）

東京学芸大学附属大泉小学校ランチルームを会場に総会を開催しました。

・第一回研修会（五月）

みんなのコード未来の学び探究部 福田晴一様を講師に、「これからの管理職に求められる資質・能力」と題してご講演いただきました。

・第二回研修会（六月）

職務論文等の指導を実施しました。

・面接研修（九月）

・教育実践研修会（十一月）

練馬支部長 風見 由起夫

（練馬区立大泉第三小学校）

若手、中堅教員による教育実践の発表会。タブレット等を活用した教育活動、校務改善等の実践報告でした。

・練馬支部新年会（二月）

四年ぶりの支部新年会、感染症前に比べると参加人数は少なかったものの、OBと現役との交流が図れました。

・研修会（二月）

還暦を迎えた校長先生（四名）に講話をいただきました。

これまで諸先輩方が耕してきた練馬支部という豊かな土壌の中で、中堅、若手の先生方が今日の教育課題に向き合いながら、様々な取り組みに挑戦しています。練馬支部もまた「多方面への教育実践」に取り組んでいます。



農業者と連携した
練馬大根の栽培

足立区の紹介

足立区には、小学校が六十七校、中学校が三十五校あります。小学校にはおよそ二万九千七百人の児童（都内四番目）が、中学校にはおよそ一万三千六百人の生徒（都内三番目）が在籍し、教育活動を展開しています。足立区基本計画では「家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む」施策として以下の五つの施策が示されています。

① 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

② 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取組

③ 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

④ 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実

⑤ 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援

そして、①誰もが子どもを支える主役②貧困の連鎖を断ち切る教育の二本を柱とした足立区教育大綱の基本理念「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」の実現に向け、足立区教育振興ビジョンを策定し、様々な施策が展開されています。

学校数、児童・生徒数が多い足立区ですが、GIGAスクール構想に基づき、ICT環境が急速に整備され、授

足立区支部長 大塚 信明

（足立区立花畑小学校）

業での利活用が進んでいます。令和三年度から始まったモデル校の実践が認められGoogle for Educationパートナー自治体に認定されています。今年度は五百人を超える先生がICT育成プログラムを受講し、各学校で組織的なICT技術の向上や、利活用方法の共有、新たな事例の創出に取り組んでいます。また、ジュニアICTリーダーに七校の小学四年生、四百七十六人が認定されています。足立区が設定したICTに関する一定のスキルや情報モラルを有する「あだちICTマスター」には、およそ百五十人の五年生児童が認定されました。先生と子どもたちが、共に頑張っている足立区です。



授業での効果的な活用に向けて
研修に励む先生たち

武蔵野市の紹介

武蔵野市は、市立小学校十二校、中学校六校があります。JR中央線の吉祥寺、三鷹、武蔵境の三駅が市を東西に貫く交通の便のよさ、井の頭恩賜公園などの緑の多さ等、人気の市の一つです。

本市では現在、「自ら人生を切り拓き、多様な他者と協働してよりよい未来の創り手となる力を育む」を基本理念とした第三期学校教育計画（令和二（六年）を基に、様々な教育活動を行っていきます。中でも特色ある教育活動として「セカンドスクール」「武蔵野市民科」があります。

セカンドスクールは、平成七年に全小学校で、翌八年からは小中学校全校で実施している長期宿泊体験活動で、現在は小学校第五学年が五泊六日、中学校第一学年が四泊五日の体験活動を行います。また、小学校第四学年も二泊三日のプレセカンドスクールを行っています。

セカンドスクールでは、民宿等に宿泊し、普段の学校生活では体験し難い総合的な体験学習活動を通して、自然を愛する心、課題解決能力、情報活用能力並びに人間関係形成、社会参画、自己実現に関わる資質・能力を育むことを目指しています。とくに宿の方と

武蔵野支部長 鈴木 健太郎

(武蔵野市立関前南小学校)

のかかりは貴重な経験で、大きく成長できる機会となっています。

また、武蔵野市民科は、小学校第五学年から中学校第三学年で行う教科横断的な探究学習で、「自立」「協働」「社会参画」の三つをキーワードに各工夫を凝らした教育活動を進めています。地域の商店街とコラボしたり、駅前のイルミネーションをデザインしたり、自分たちの考えを市長に提言したりと、児童・生徒の市民性を育む様々な教育活動を行っています。

コロナ禍を超え、新たな教育活動の形が見えてきた今年度、次年度以降、改めて武蔵野市部の活動を盛り上げていきたいと思えます。



セカンドスクール
宿の方との感謝の会

府中市の紹介

府中市には市立小学校二十二校、中学校十一校があります。会員数百六十九名、管理職二十五名、教育委員会二名で活動をしています。

府中市には、駅前には長い歴史の大國魂神社や天然記念物に指定されている馬場大門のけやき並木があります。

このけやき並木の再生プロジェクトを、都立農業高校と府中一中そして府中一小の児童・生徒が協力して取り組んでいます。育てた苗木の一部は、市内の小中学校に植えられる予定です。小中学校だけではなく高等学校とも連携した取組も行われています。

府中市の教育の特色の一つにイングリッシュウイークという外国語教育があります。小中学校全校で児童・生徒の実態に応じた外国語教育の充実を図っています。中学校では英語でクッキングという取組をしている学校もあります。

また、立川市にある東京グローバルゲートウェイ・グリーンズプリングスで、小学校五年生と中学校一年生全員が公費で体験プログラムに参加しています。

もう一つの特徴として、全小中学校にサポートルームを設置しています。サポートルームとは、不登校傾向の子

府中支部長 関 修一

(府中市立府中第三小学校)

供たちが利用するスペースです。不登校への対応は、どの地域でも課題になっていることと思います。府中市では、全校にサポートルームを設置することで新たな不登校を防止したり、不登校傾向の子供たちが教室復帰したりする場としています。実際に、サポートルームの活用から教室復帰する子供も出てきています。

府中市は、小金井市に隣接しているため、教育実習生として学芸大学の学生を多く引き受けています。また、出身の教員もたくさん在籍しています。今後も、同窓会とのかかわりを深めながら教育活動を進めていきたいと考えています。



大國魂神社

狛江市の紹介

狛江支部長 亀田 親子

(狛江市立緑野小学校)

狛江市は全国で二番目に小さい市です。市の南側には多摩川が流れ、畑も多く、住宅地でありながら自然豊かな環境です。小学校は六校、中学校は四校と学校数も少ないですが、その分大変小回りが利き「コンパクトシティ狛江」と言われています。この長所を活かし学校教育の基本である一人一人の児童の学力向上と心と体の健やかな成長を目指して、狛江市教育委員会と連携を取りながら、各校がそれぞれに特色のある学校経営を行っています。

狛江市では市独自の学力調査（NRT）とWebQUアンケートを実施しています。この結果を活用し、やる気のある学級づくりを進め、落ち着いた学習環境を整備し、学力の向上や不登校の防止に結びつけています。教員の研修については、小学校教育研究会を年間を通して開催し活発に活動を行っています。タブレット端末を活用した授業の工夫も重点にしながら、各教科部会で研究授業を軸に研鑽を深めているところです。

また狛江市では特別支援教育にも力を入れています。「地域の中で切れ目なく寄り添い支えすこやかにほぐくむ」を基本理念として設置された児童発達支援センター（ひだまりセンター）では幼児期から継続的に支援を受ける



特別支援学級での習熟度別指導

ことができます。小中の各学校でも、特別支援教室・特別支援学級（知的固定・情緒固定）の利用増加に伴い、より良い教育活動が行えるように環境を整えながら、日々授業を行っています。さらに、開かれた学校から一歩踏み出し「地域とともにある学校」への転換を目指して、令和四年度より小・中学校ではコミュニティ・スクールがスタートしました。中学校四校を核として四つのゾーンに分かれ、小・中学校の二～三校が一つとなり、コミュニティ・スクールを構成しています。二年度となる現在は各ゾーンで義務教育九年間を見通し、地域と連携を深めた特色のある教育活動を展開しています。

羽村市の紹介

羽村支部長 三浦 利信

(羽村市立羽村第一中学校)

羽村市は、東京都心から西へ約四五キロメートルに位置し、多摩川周辺の自然や武蔵野の面影を残す雑木林などの緑につつまれ、住宅地と工業地域がバランス良く配置された都市です。市の西から南へ多摩川が流れ、江戸時代に開削された玉川上水の取入口のあるまちとして知られています。平成三年十一月一日に市制が施行され、人と自然、都市機能の調和した美しいまちづくりを進めています。

東京都内の市の中で、面積は三番目に小さく、人口は一番少ないコンパクトな市です。市内に中学校は三校、小学校は七校あり、各校それぞれ、学校や地域の特色を生かした教育活動を展開しています。

羽村市教育委員会は、第二次羽村市生涯学習基本計画（計画期間…令和四年度～令和十三年度）では、羽村市生涯学習基本条例における基本理念を体现するため、羽村市が目指す生涯学習社会の姿として、「人とつながる 豊かな心を育む 未来にひろがる はむらの学び」を掲げ、推進しています。

学びは様々に関連し、連携し、受け継がれ、それが地域の文化や伝統となっていくきます。学びを通じて感じる羽村らしさ、地域を思う気持ちが「ふ

るさと意識」を醸成し、自分を認めることにもつながります。先人たちが築いてきた「わがまち 羽村」をこれからの時代を生きる今の子供たちへとつないでいきます。そして、市民が自ら楽しく学ぶことができる生涯学習を推進しています。

羽村支部の会員数は二七名で、管理職は校長四名、副校長二名となっています。最近では実施を見送っていましたが、コロナ禍前までは支部全体での懇親会も年一回実施していました。

小・中学校合わせて十校と小さな支部ですが、同窓の輪を大切に、支部活動を進めていきたいと考えます。



玉川上水の起点 取水堰

サンティアゴだより

サンティアゴ支部長 早川修一

(チリ・サンチャゴ日本人学校長)

日本から見て地球の裏側、私のいるチリの首都サンティアゴ（首都名はサンティアゴ、日本人学校名はサンチャゴ）は、南緯三十三度、西経七十度ぐらいに位置します。日本との時差は、サマータイム期間中の今は十二時間、そうでない期間は十三時間となります。南北に細長い国のため、イースター島以外は同じ等時帯に入っています。気候的には、チリの国土が南北に長いため、北から南まで様々ですが、首都のあるあたりは地中海性気候で、とても過ごしやすい地域です。十一月から四月ぐらいまではほぼ雨は降らず、山火事が毎年起きています。昨年二月も日本でチリの山火事が報道されていますが、今年も首都から百kmぐらいのところ、しかも民家に近い地域で大規模の山火事が発生したため人的被害が拡大し、ニュースでご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

さて、サンチャゴ日本人学校は、一九八二年に当時の文部省から日本人学校として認定され、今年で四十一年目となります。現在児童生徒数が

三十四名、小学部五年と中学部三年は在籍児童生徒無し、小学部六年、中学部一、二年は、いずれも一名ずつしか在籍児童生徒がいません。ピークだった一九九〇年代は、八十名ぐらいいた時もあったようです。どの国もコロナ禍で児童生徒が減り、今また回復しつつあるところです。ちなみに、今年度一番少なかった時は二十六名でした。来年度のスタート時は四十名になる見込みです。日本人学校は、経営的には私立学校と同じですので、児童生徒数の増減は、学校運営に大きく関わってくるため、常に児童生徒数増加の方策を練っています。

他の国同様、サンティアゴでも日本人学校離れは進行していて、学校を会場で英検を実施すると、受検者の八割以上が日本人学校以外に通う児童生徒ということもありました。昨年度末に日本人向けの幼稚園が廃園したということもあり、今年度から就学前児童向けの学校体験イベントも始めました。チリの現地校やインター校は、ほとんどが日本でいう年中から高校までの一

貫校の形をとっています。そのため、幼稚園でまずは現地校やインター校に入らざるを得なくなり、小学生になる年齢になってもそのまま通うということが多いようです。また、サンチャゴ日本人学校はチリ文部省の公認学校ではないため、中学部を卒業しても、チリの中三を終了したという資格がもらえる訳ではないということも、日本人学校離れの要因となっています。

学校職員の内訳は、派遣教員が校長含めて九名、スペイン語・英会話を教えるチリ人講師が二名、あとは、事務局長、秘書、用務員が各一名の計十四名です。教頭職の配置はなく、今年度は教務主任だけ担任もっていませんが、来年度は一学級増のため、教務主任も担任をもつ予定です。校長も授業をもっており、私は全学年の音楽と中学部の技術、週あたり十二時間強の授業を担当しています。

児童生徒はほぼ全員がスクールバスで登下校しています。そのため、特定の学年だけの早帰りが難しく、今年度は小学部一〜三年だけが月曜日のみ五時間、他の学年は、月火木が七時間、水金が六時間、週三十三時間授業があるという、かなりハードな時間割をこなしています。これは、日本の教育課

程外でスペイン語と英会話の授業を行うためです。小学校一年生に入学して数日後には週三十一時間の授業がスタートする訳ですので、小一にとっては、慣れるまでかなり大変です。

さて、最後にサンチャゴ日本人学校と私の不思議な縁について書きます。私の附属大泉小時代の先輩、同窓会監事の伊藤隆先生は、一九九二年からサンチャゴ日本人学校に勤務されました。伊藤先生は、私が副校長で勤務した学校の校長でもありました。

サンチャゴ日本人学校校歌の作曲者は、私が附属高校大泉校舎で教育実習をした時の恩師である泉靖彦先生です。校歌を指導するたびに、泉先生や教育実習を思い出します。

私が住んでいるマンションの部屋を扱っている不動産会社のチーフスタッフは、私がバンコク日本人学校に勤務した時の中三で、一年間音楽を教えた生徒でした。世界は広いようで、意外と狭い、縁は不思議です。

写真を入れる隙間が亡くなってしまいました。学校のホームページでカラー写真がたくさん見られます。どうぞご覧ください。

URL : <http://www.iejapones.cl>

令和4・5年度 江東区教育委員会研究協力校

研究主題

児童の資質・能力を伸ばす新しい学びの授業デザイン ～自らの学びを表現するICT活用～

令和5年12月8日（金）発表

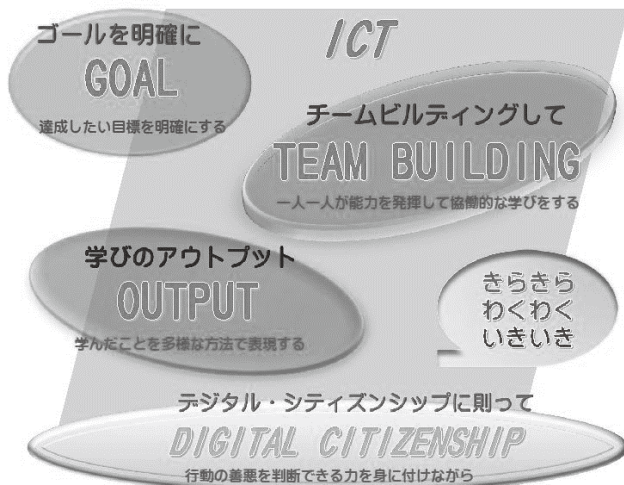
江東区立水神小学校 校長 古田 豊

はじめに

本校では、急激に変化していく時代の中で育むべき資質・能力を児童に身に付けさせるべく、新たな授業スタイルを構築していく必要があると考え、三年間に渡り、研究に取り組みました。児童が主体的にICTを活用し、学んだことを工夫してまとめたり発表したりする授業を行うことで、求められる資質・能力を育成しようと考えました。特に、児童の主体的・対話的なICT活用による協働的な学習活動を通して、得られた自らの学びを表現すること(学びのアウトプット)に重点を置いて授業デザインをしました。

研究イメージ

ICTを有効活用し 自らの学びを表現する 新しい学びの授業デザイン



研究の内容

(1) 新しい学びの捉え方

児童が、授業で学んだこと(知識・理解)を、ICTを活用(技能)して、多種多様な考え・方法で表現(思考力、判断力、表現力)する。

児童が、きらきらと目を輝かせ、わくわく楽しみながら、いきいきと活動する(学びに向かう力、人間性等)授業を目指す。

(2) 授業デザインの流れ

- ① ゴール(達成したい目標)を明確にする…各教科の資質・能力を伸ばすために
- ② 吸収・理解をする…個別最適な学びとして

③ チームビルディングする…一人一人が能力を発揮する協働的な学びとして

④ 学びをアウトプットする…学んだことをより深い学びにするために

* 全教育活動を通して デジタル・シティズンシップに則った行動ができるようにする。

成果と課題

◇成果

・全校での取組「タイピングタイム」で、ローマ字でキーボード入力スムーズにできるようになったと感じる児童が多く、学習の中で速く文字入力ができたり、作業効率が上がったりする効果が見られました。

・知りたい情報を集めるために、学習者用端末を積極的に活用する児童が増えました。

・学習者用端末を使うことで、自分が思ったことや考えたことを伝えやすいと感じる児童が増え、また、いろいろな教科等で発表する活動に主体的に取り組む児童が増えました。

・高学年では、児童自らが学習者用端末の活用方法を考え、委員会の計画や発表に利用したり、他学年・学級への連絡ツールにしたりして幅広く活用したりする場面が多く見られました。

◆課題

・学年が上がるごとに、学習者用端末を使ったさまざまな作業や操作ができるようになると、児童が求める水準が高くなり、より厳しく自己評価をする傾向が見られました。

・ICT活用が受動的になったりマンネリ化したりすることなく、自ら進んでさらに工夫して活用できるようにしていく必要があります。

おわりに

研究を進めるにあたり、研究のための研究にならないように、教員の負担にならないように、教師自身がわくわく楽しみながらチャレンジすることをモットーにしました。多数の参観者に、肯定的なご感想をいただいたことが、大変励みになりました。年間講師としてご指導いただいた「みんなのコード」福田晴一先生に深く感謝いたします。

令和4・5年度 墨田区教育委員会 研究協力校
研究主題

「学びに向かう力、人間性等」を育む授業づくり ～ 学びの実感が得られる授業 ～

令和5年12月8日(金)研究発表

墨田区立第一寺島小学校 校長 森村 聡彦

1 研究主題について

(1) 主題設定の理由と身に付けさせたい力

令和3年度末に、本校教員から、「幅をもたせ、失敗することを恐れずに、子供たちが主体的に取り組めるような体験をさせたい。」「『できた』、『わかった』を大切に授業づくりがしたい。」などの意見があがった。そこで、児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力(【総則編】小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説より)にある「学びに向かう力、人間性等」に着目し、主題を「学びに向かう力、人間性等を育む授業づくり～学びの実感が得られる授業～」と設定した。

興味・関心から自己に必要な課題を見付け、主体的に学びを高めていくための〔見通す力〕、学習過程を理解し、対話的学びを通して自己の学習方法を精査できるようにするための〔調整する力〕、学習活動から自己を振り返り、深い学びを通して考えを広げたり深めたりできるようにするための〔振り返る力〕の3つの力を研究の柱として、研究を進めた。

2 研究の概要

(1) 研究の進め方

- ・ 「高学年(体育科)」、「中学年(理科)」、「低学年(国語科)」の3つの分科会を設定する。
- ・ 研究主任を中心に、分科会ごとの指導案検討会を行う。月に1回は指導案検討ができるように授業時数を計画する。
- ・ 分科会ごとに目指す児童像とそれに迫る手だてを協議し、設定する。
- ・ 各分科会の授業研究を年間計3回実施する。
- ・ 適宜、各分科会で日常の実践を共有し、共通理解を図りながら研究を進める。

(2) 研究のねらい

- ・ 児童が学びを実感できるようにするために、授業展開や手だてについて検討し、授業を実践すること
- ・ 児童の「学びに向かう力、人間性等」を育むための有効な手だてや授業展開について検証すること

(3) 目指す児童像と手だて、実践について

低学年 学びを楽しむ児童

具体的な児童の姿

- ・ できたこと・分かったことを自覚している。
- ・ 見通しをもって学習に取り組んでいる。
- ・ 互いのよさに気付いている。
 - ①めあてと振り返りの工夫
 - ②学習計画の工夫

中学年 粘り強く挑戦する児童

具体的な児童の姿

- ・ 課題に対して、粘り強く取り組んでいる。
- ・ 自分の考えと他者の考えとの共通点や差異点に気付いている。
- ・ 互いのよさを認め、学ぼうとしている。
 - ①事象提示の工夫
 - ②粘り強く取り組む工夫
 - ③学習の流れの工夫

高学年 自らの課題を解決しようとする児童

具体的な児童の姿

- ・ 自ら課題を見付けている。
- ・ 解決方法を工夫している。
- ・ 互いに高め合っている。
 - ①自己の課題を見付ける工夫
 - ②課題解決するための時間を設ける工夫
 - ③学習意欲を向上させる工夫

3 まとめと今後の課題

(1) 成果

〔児童〕

- ・ 学習の振り返りから次時のめあてを立てることで、児童が主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・ ノートやタブレット、振り返りカードは、蓄積できるので個別最適な学びにつなげることができた。
- ・ 学習の目的を理解し、見通しをもって学習に取り組む児童が増えてきた。

〔教員〕

- ・ 『学びに向かう力、人間性等』についての理解を深め、日々の授業改善に繋げることができ、児童が知識を得て、学び方を学んでいく姿を見ることができた。
- ・ 若手教員が増えている中で、各教科の特性や、授業の進め方について学ぶことができ、授業改善や評価方法の理解を深めることができた。

(2) 課題

〔児童〕

- ・ 3教科で身に付けた力を、他教科でも活かしていく必要がある。
- ・ 児童同士が互いに学びの実感を得られるような言葉掛けをしていく必要がある。

〔教員〕

- ・ 児童の変容をどのように見取るか、具体的な評価方法を設定する必要がある。また、授業中の発言や行動、振り返りの内容などの視点を定め、年間を通して評価をする必要がある。

平成2年度 A 類国語科卒業
アメリカンフットボール部でした



令和4・5年度 昭島市教育委員会 研究指定校(令和5年11月17日研究発表)

研究主題「子供も教師も楽しめる学びの創造」

～「光華遊学」で遊ぶように学ぶ～

昭島市立光華小学校 校長 眞砂野 裕

1 未来の学校へ！— 目指すは「agencyの獲得」です！ —

「10年後の子供たちに必要な力って何?」「じゃあ、10年後の光華小学校、どうなっていてほしい?」これが、私たちの研究の始まりです。

真に子供を学びの主体者にとらえ、面白くのめりこむような学びを求めて「光華遊学」は誕生しました。これは、研究だけではおさまらない!...だから「遊学」を学校経営のど真ん中に据えました。

子供も、教師も、保護者・地域も共通のテーマが「まず、やってみよう!私の学校は私がつくる!」。目指すは「agency(社会を変革するコンピテンシー)の獲得」です!

2 子供たちのスイッチはどこにあるか? — 3つの「遊学スイッチ」を学びに盛り込む —

子供が学びの主体者となるのはどんな時か? 1年目の基礎研究で、3つのスイッチを抽出しました。

楽しくなるスイッチ

- ・競争 ・偶然
- ・模擬 ・収集
- ・感覚刺激 ・創造

自由になるスイッチ

- ・教材選択の自由
- ・学習方法の自由
- ・学習量の自由

主人公になるスイッチ

- ・身近な課題
- ・子供が望む課題
- ・必要感ある振り返り

3 学びのスタイルを変える — 「教科横断型」「自由進度型」「プロジェクト型」学習の実践 —

上記のスイッチを具現化していくためにも、研究2年目は、新しい学びのスタイルに挑戦しました。

<例1> 2年生 教科横断型学習「ドキドキワクワク!ヤギ牧場」

○光華小に3頭のヤギがやってきた!エサは?住むところは?
糞の数や形状も記録して...子供たちの探究が止まりません。

<例2> 3年生 単元内自由進度型学習

国語科「宝島の冒険」×理科「音を出して調べよう」

○用意された学習環境を活用し、15時間枠の中で個々が計画し、進める主体的な学びの実践です。



<例3> 5・6年生 プロジェクト型学習「こどものまちづくり — 光華ビレッジをつくらう —」

○校庭にこどもの町をつくらう!市長選挙・市役所・お店、オリジナルのお金を使って買い物したり、遊んだり...お金がなくなったらハローワークで仕事を探してアルバイト。税金も考えなくちゃね。

4 学校の中に「プレイパーク」をつくってみました! — トラブルも含めて、遊びの主体者は子供です —

東京都の事業にも採択され、校庭にプレイパークを作りました。これも「光華遊学」の一環です。

※ 詳しくはこちらを検索 ▶ [子供の遊び cfoo](#)

第61回 全国小学校社会科研究協議会研究大会（第2会場）

第22回 関東地区小学校社会科研究協議会研究大会

令和5年度 東京都小学校社会科研究会研究発表会

令和4・5年度 小金井市教育委員会研究奨励校

大会主題 「社会とつながり未来を創る子供の育成」

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

令和5年11月10日（金）発表 小金井市立小金井第一小学校 校長 浅野 正道

一 はじめに

本校は一八七三年（明治六年）創立、今年度、創立一五〇周年の年となります。その記念すべき年に、全小社研東京大会第二会場校として全学級の公開授業及び研究発表を行って、幸いに思います。

二 研究の概要

令和二年度より国立教育政策研究所の研究指定を受け、全教職員が力を合わせて、子供たちが主体的に学ぶ授業づくりの研究を進めてきました。毎時間の授業の中で子供が主体的に調べ、考える時間を十分に確保して、考えたことを少人数グループやICT端末等を活用し、友達と話し合い、表現できるような指導を重ねてきています。さらに、この二年間、東京大会で本校に関わる十九地区の先生方と共に、授業づくりを推進しました。特に今年度は五月から七月まで、各学年の校内研究会に、毎回他校から多くの先生方が参加され、研究授業後の研究協議会では、本校



教職員と一緒に少人数グループで熱心に協議を行い、お互いの学びを深められました。八月の都小社研夏季研究会にも、他校から七十名の先生方が参加されて、各学年の授業について意見交換を行いました。九月以降もその交流は続き、授業や教材等について話し合い、事前授業を参観して協議を重ねるなどにより、それぞれの授業に深まりが見られ、大会当日を迎えることができたといえます。

大会当日、多摩地区で唯一の会場校であるにもかかわらず、全国から三百名を超える方々が参加し、

とても熱心に全学級の公開授業を参観されていきました。三年生から六年生までの社会科の授業では、全ての小単元で「つなぐ」段階を設定して、本校授業の特色である「問い」をもち、対話的に学び合ったり多角的に考えたりする学習活動を展開しました。「つなぐ」時間の「問い」は、すぐに答えが出せないものも多く、「より良い社会とはどういう社会か。」「本当の幸せのある社会とはどういう社会か。」を、これからも考え続けることにつながる一時間だったと考えます。

三 おわりに

本校は、明日、子供と授業をしなくなる学校を目指して、教師も子供も幸せになるような校内研究に取り組んできました。大会で終わりではなく、明日からも、研究の轡をつなぎ走り続けて参ります。

三十年後を見据えて

港区立港南小学校 副校長 久道 泰 司

現任校に赴任して四年が過ぎようとしています。赴任当時は、コロナ禍で学校は臨時休業をしていました。大規模校で、若手の教員も多く、人財を育てるためにはどうしたらよいか、教職員が笑顔で働きやすい職場にするためにはどうしたらよいか、満足に教育活動ができない中、自問自答の日々が続きました。

大学を卒業してから長く企業経験をした後、四十歳を過ぎた年に転職し、教員になりました。企業では、数多くの起業家の方や企業の社長から相談を受けたり、会社の成長のお手伝いをしたりすることを通して、たくさんの方と学びました。その中で多くの企業経営者の方から「企業は人なり」、「人材の育成なくして会社の発展はない」と教えていただきました。

そして、先生方が、どんな思いでこの職業を選択し、どんな思いをもって働いているのかを考え、壁をつくらず、常に声掛けをして、コミュニケーションを心がけることにしました。ときには、厳しい言葉かけをすることもありますが、初任者や若手の先生には、何か問題が起こったり、課題が見つかった

りすることがあるときには、周りの人や環境のせいにするのではなく、「自身にベクトルを向けなさい」、「仕事は教えられないものではなく、盗むものだ」、「常にアンテナを高くもち、周りに気を配りなさい」と話しています。また、社会人となつての初めての三年間で何を学ぶかによって、その人の三十年後が決まると言われています。すべて、この学校現場での厳しい環境を乗り越えるための教えです。

現在、社会全体は売り手市場です。教育現場でもなり手が不足しています。教員を目指そうとしている人たちに学校現場で働く先生たちが明るく、楽しい教員生活を送っている姿を見ることが、なり手不足の解消に繋がっていくのではないかと思います。初任者として、教壇に立つてから退職を迎える日まで、この職業を選択して良かったと後悔しない教員生活を送ってほしいと思っています。

企業人としての経験や学校現場で校長先生や諸先輩方にご指導いただいたことを生かしながら、子供たちの三十年後、先生方の三十年後を見据えて職務を行っていきます。

副校長としての仕事のやりがい

あきる野市立一の谷小学校 副校長 日 吉 英 智

私は、副校長に昇任して七年目となります。これまで勤務した地区の方々には大変お世話になりました。地域の方々と協力して楽しく教育活動を行うことができています。

副校長の職は大変だと言われます。実際、そうだと思います。学級担任の時に比べ、仕事内容の変化に初めはとて戸惑いました。慣れてくると、大変である一方、やりがいを感じられる場面もありました。

ある日、勤務中に地域の方が、職員室へやって来て、地域の様子について話をされました。その話の最後に「副校長先生は、話しやすいから、いろいろな話ができていいね。」とおっしゃったのです。「話しやすい」ということは大事だと思っています。私は、副校長という仕事は、職員や地域、保護者とのコミュニケーションを積極的に行うことが重要なポイントだと思つているからです。様々な感想や意見などから学校をより良くしていくのが副校長としての使命だと感じています。

それなので、「話しやすい」と言われた時はとても嬉しかったですし、副校長をやっていて良かったと思つた瞬間でした。

副校長となると、どうしても土日の地域行事に出席することが多くなります。「たいへんだ」と思う反面、地域での子供たちはどんな表情をしているのか、地域ではどのような活動が行われているのかを理解するのに大事なことでと思つています。

勤務先の子供たちが参加している地域でのスポーツ大会に応援に行った時のことでした。自分の勤務校の子が出場するときに私は大きな声で応援していました。子供たちの応援に夢中になってしまったのですが、その様子を保護者の方が見ていて、「まるで、自分の子供のように応援してくださいありがとうございます。」と副校長先生は、日頃、あまり子供たちと関わりがないのではと思つていましたが、子供たちのことを考えてくださりありがたいです。」という言葉をいただきました。子供は、学校と保護者、地域が上手に関わって育てていくものだと思います。このような言葉をいただく副校長をやっていて良かったと感じます。今後も保護者や地域、そして教員間のコミュニケーションを大事に副校長職に精進したいと思っております。

学び続ける姿勢

杉並区立久我山小学校 宇梶 恵美

両親ともに小学校教員の私は、小学生の頃から教員になることを目標にしてきました。そして、平成二十九年四月、東京学芸大学初等教育教員養成課程理科選修へ入学しました。四年間で、素敵な仲間と出会い、様々なことを学びました。四年目の年に流行した新型コロナウイルスの影響もあるまま、令和三年三月に卒業しました。

一年目の年は、二年生の担任でした。期待と緊張の気持ちで子どもたちと対面した始業式のこと忘れません。理想を胸に、初めての学級経営が始まりました。しかし、現実はその簡単にはいかず、上手くない授業と毎日起こるトラブルの連続に、自信をもてず疲れだけが溜まっていきました。保護者との関係づくりも難しく、落ち込む日々でした。そんな時、私を助けてくれたのは学年の先生方でした。学級での問題を報告すると、私の気持ちに共感しながら親身になって話を聞いてくれました。一緒に解決策も考えてくれました。

学年の先生方に支えられて、乗り越えられた一年目。私はこの一年目で学んだことがあります。常に学ぶ姿勢です。

学級経営力も授業力もある先生方でしたが、すすんで他の先生に質問していました。

「分からないことは、聞けば良いんだよ。誰だって分からないことはあるよ。」

今も大事にしている言葉です。分からないことを恥ずかしながら、たくさん質問をして吸収していきたいです。

二年目は、四年生の担任でした。新しく出会った子どもたちと一年目で学んだことを活かして、楽しい日々を送りました。そして、現在、三年目は三年生の担任をしています。日々の教材研究をする余裕も出て、児童が主体的に取り組む授業を目指して日々勉強しています。

来年からは四年目の年を迎えます。日々様々なことがあり、落ち込むこともあるかもしれませんが、常に学ぶ姿勢を忘れず、より良い授業で学級をつくっていききたいと思います。そして、同じように悩んでいる後輩がいたら、一年目の時の先生方のように話を聞き、支えていけるようになりたいです。出会った児童や先生方と共に、成長していきます。

大学での学びと日々の成長

福生市立福生第四小学校 加藤田 尚輝

私は、初等教育教員養成課程数学選修で四年間学びました。大学三年生までは、中学校数学科の教員を目指していました。小学校の教員を志すと決めたのは、大学三年生での教育実習です。附属竹早小学校で一年生を担当しました。三週間という短い期間ではありましたが、学習面だけではなく、友達との関わり方などの社会性や人としての成長を間近で見ることができました。

また、子どもたちの姿を想像しながら、教材研究や授業準備を一生懸命行なった研究授業では、「子どもたちが楽しみながら活動し、「分かった!」と達成感を得ている姿を見て、小学校教員に大きなやりがいを感じました。

教育実習をきっかけとして、小学校教員としての心構えや教科指導法などを学びました。大学四年生の時には、教員採用試験に向けて、友人とともに、面接や集団討論などの練習を重ね、自身の教育観を深めることができました。東京学芸大学は、教育に対する熱意や使命感をもった学生が多く集まっています。その強みを生かして、ともに教育について話し合ったり、学び合ったりの四年間の経験は、現場

での教育に大きく役立っています。令和五年度、東京都の小学校で、長年の夢であった教員生活を始めることができました。教員一年目は、四年生の担任として、充実した一年間を過ごすことができました。充実したと言える理由は大きく二つあります。

一つ目は、子どもたちの笑顔や成長をたくさん見ることができたからです。教員の毎日は、楽しいことだけではなく、大変なこともあります。しかし、子どもたちと楽しく会話できることや、成長を間近で見られることが、私のやりがいとなっています。

二つ目は、教員として、学び続ける姿勢を高められたと考えているからです。初任者研修や他の教員の授業観察から多くのことを学んだり、刺激を受けたりしたことで、「もっと学び、小学校教員として成長し続けたい」と考えるようになりました。

今後も、大学時代の学びを生かしながら、さらに多くのことを学び、教員として大きく成長し続けたいと思います。

ビュッフェ新年祝賀会

総務部長 青山直志

「開会に先立ちまして、一月一日に発生した能登半島地震に関連して、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りして、黙祷を捧げたいと思います。」

令和六年一月二十一日(日) 正午、この黙祷から始まった新年祝賀会でしたが、百七名という多くのご参会をいただき、ビュッフェスタイルで盛大に催すことができました。そして、東京学芸大学学長 國分充様にご祝辞を頂戴し、本会理事長より寄付金の目録をお渡しすることができました。

会場は穏やかで和やかな雰囲気であり、やがてにぎやかになっていく様子は以前の新年祝賀会を彷彿とさせるもので、長かった自粛の時がようやく終わりを告げたことを実感しました。

「〇〇支部の皆様、ご登壇ください。」の呼びかけに「もと〇〇でも良いですか?」そうすると、他の支部も追隨し、壇上は溢れんばかりの人となり、みんな笑顔で記念撮影をしました。更に、「学籍番号A〇〇で写真を撮りましょう。」とか、「幼稚園でも撮りましょう。」等とバリエーションが増えていき、とても微笑ましい撮影会となりました。

遠くは八丈・青ヶ島支部からのご参会もあり、心から感謝を表すると共に、この雰囲気是非、各支部の皆様にお伝えいただき、いよいよ来年は、ホテル東京ガーデンパレスの高千穂の間に人数制限のないフルスペックの新年祝賀会が開催できるようご協力いただきたいと思っております。

会費納入に感謝申し上げます

会計部長 關口泰正

日頃より、会計部の活動に御協力いただき、ありがとうございます。今年度は、各支部において、久しぶりに集まる機会をつくることができましたといううれしいお話を伺っております。

各支部長先生をはじめ、会員の皆様には、会費納入に御協力をいただき、誠にありがとうございます。

それぞれの支部で、声をかけていただき、工夫して会費を徴収していただいていることに感謝申し上げます。

今年度も、一月二十日現在で、二千七百七十二名の正会員の皆様に会費を納入していただきました。また、六百五十一名の管理職の皆様には、賛助会員費を納入していただきました。

今年度も年度末の決算を迎えます。皆様から納入していただいた会費等の収支をまとめさせて頂き、決算報告させて頂いていただきます。

皆様の会費が充実した研修会や講演会、会員同士の親睦を深める機会などの活動につながります。来年度も、皆様の御協力をお願いいたします。

会計部では、今後とも、同窓会の予算管理を徹底させ、会計面から同窓会の活動を支えてまいります。

「獅子第45集」完成

研修部長 清水 淳

各支部に配本をお願いしている学校経営研修テキスト「獅子第四十五集」が完成いたしました。毎年、研修部が内容を修正し、国や東京都の施策、教育課題、そして法律にも触れ、できるだけ最新の情報を掲載するようにしています。校長・副校長等の教育管理職選挙を受験される先生方の対応策をはじめ、主任教諭を目指す若手の先生のための対応策なども掲載しております。ゆえに学校運営を支える校長先生方から若い先生方まで、幅広く活用できるものとなっております。

サイズもA4サイズで読みやすく、書庫にしまっても見付けやすい大きさになっております。内容も毎年修正を重ねて充実させ、好評を得ております。

より多くの同窓の先生方の修養に役立っていただきたいと、同窓会本部の支持もあり価格は昨年度同様です。三月二十二日を目途に各支部へお届けいたします。

次年度の研修会予定です。

【論文研修会】

①五月十九日(日) ②六月二日(日)

両日とも九時より

【面接研修会】

・九月八日(日) 九時より

【論文研修会(主任教諭選考)】

・令和七年二月一日(土) 十五時より

*会場は、すべて新宿区立市谷小学校
※各研修の申し込みは、獅子の表紙裏の「申し込みQRコード」からお願いたします。

次年度の管理職等名簿の準備について

調査部長 藤山由仁

皆様のご協力のおかげをもちまして、昨年九月に「令和五年度管理職等名簿」が完成し、学芸大学同窓会ホームページ上にPDFで掲載することができました。いつも調査部に大きなご協力をくださり、心より感謝申し上げます。

今後の作業ですが、この二月から、各支部長の皆様に最新の支部の名簿をメールで送信する予定です。四月から令和六年度の「管理職等名簿」を作成する際、これを修正してご提出いただければ、作業も容易になると思います。新支部長への引き継ぎも含めて、どうぞよろしくお願いいたします。

その前に新支部長と名簿作成担当者を決めて、調査部に送信していただく作業がございます。(三月二十二日(金)までに) 詳細は同窓会ホームページの支部長会資料をご覧ください。

また、支部長の皆様に特にお願いしたいのは、終身会員の名簿の確認・点検です。誠に申し上げにくいのですが、二十八年以前卒業の皆様は、ご高齢で物故者やご逝去、ご不明の方もおられます。「その他」の欄にご逝去の年を記載し、次の年にはお名前を名簿から割愛していく作業が必要となります。

終身会員の登録の仕方は、希望者が支部長から申込書を受取り、ご自分で手続きをする流れになります。詳しくは管理職名簿の巻末やホームページに掲載しています。終身会員を希望される方は所属支部に連絡を取りご相談ください。

新年祝賀会

新年祝賀会での支部からの報告などの様子です。



大田支部



江戸川支部



台東支部



渋谷支部



東村山支部



目黒支部



練馬関係者



板橋支部